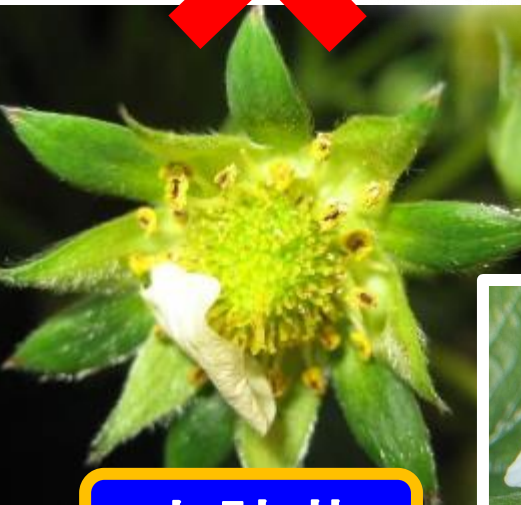


訪花活動の確認

曇天、雨天、
低温が続く
と仕事ができ
ない……

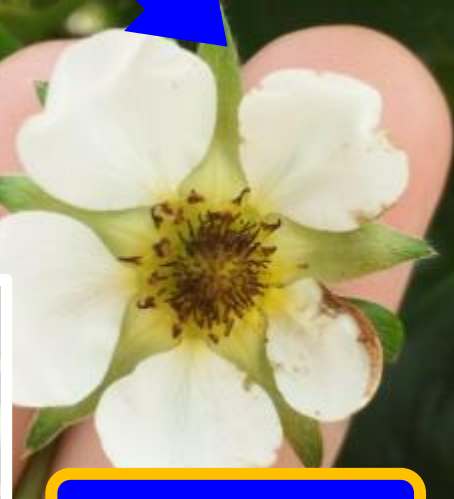
花が少ない
と訪花し過
ぎて花を傷
める……



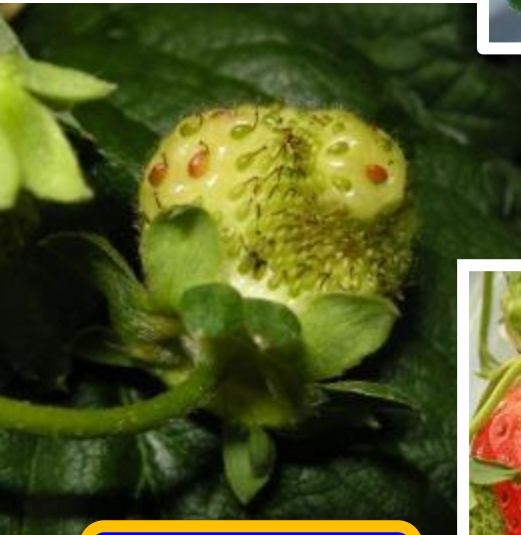
未訪花



適正訪花



過剰訪花



奇形果



奇形果

小ハウスでの利用、過剰訪花への対策

1. 巣門を回収用の口にして、働き蜂を回収し、出巢制限を行う(次の花が開花するまで出巢させない)
2. 乾燥花粉を給餌し、コロニーの採餌欲を軽減する
3. 2～3日開放、2～3日閉じ込めの訪花制限を行う
4. 他のハウスに導入するローテーション利用

活動確認をしながら、
乾燥花粉をまめに
与えるのがポイント！

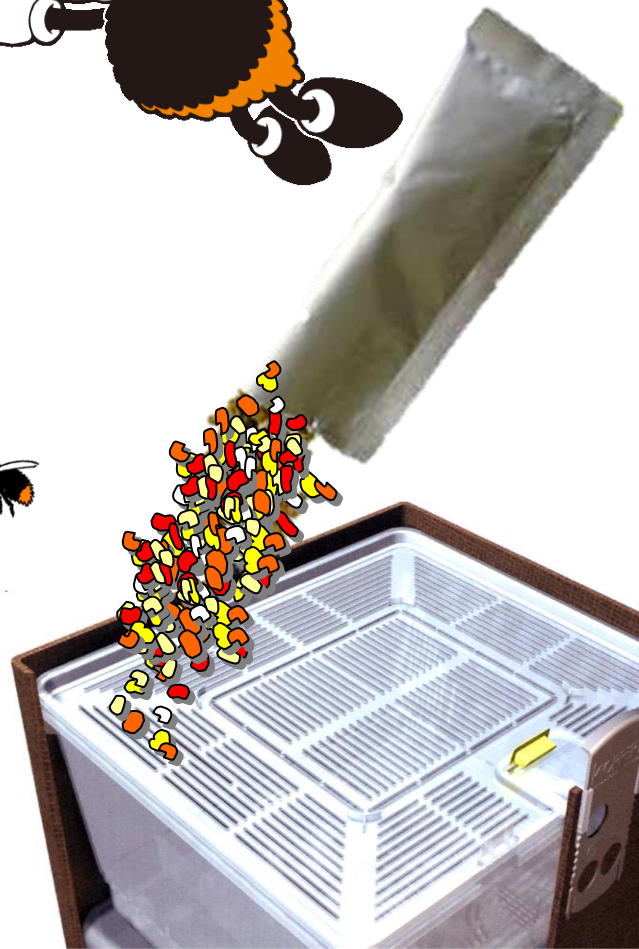
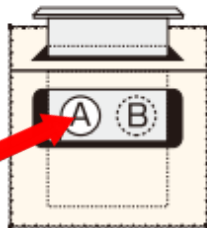
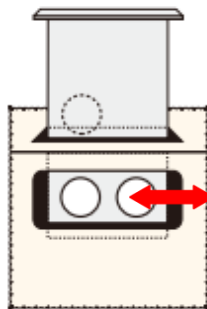
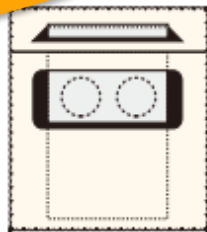
閉鎖モード



使用モード



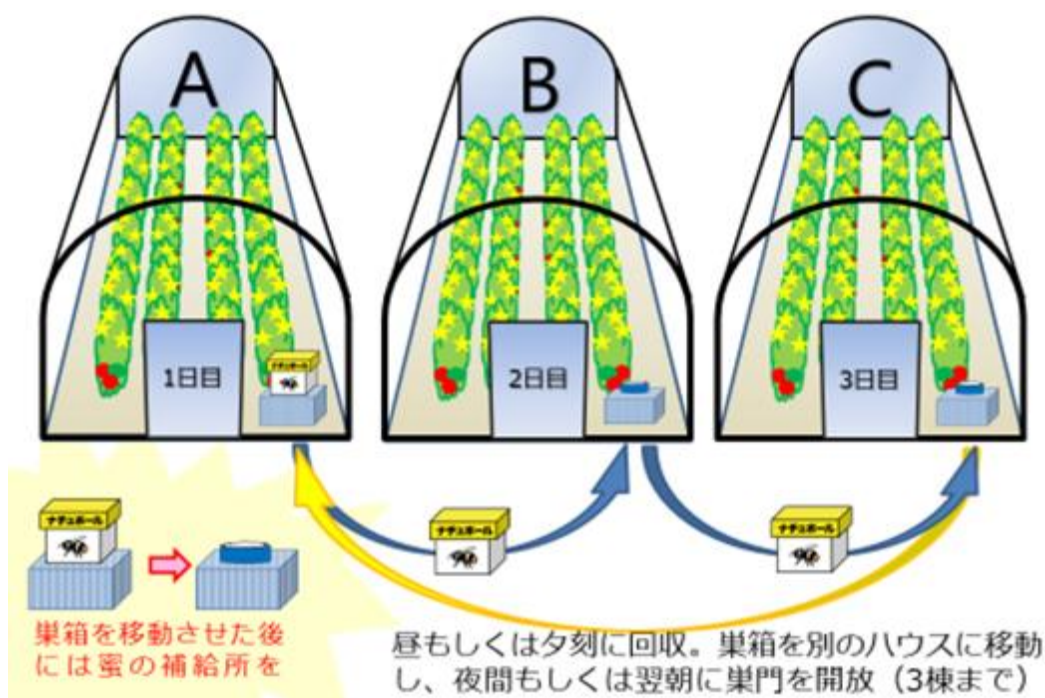
回収モード



小ハウスでの利用、過剰訪花への対策

①ローテーション

小規模ハウスをいくつか保持されている生産者の場合には、回収モードではなく通常の活動モードのまま、日が暮れて働き蜂が帰巢するのを待ってから巣門を閉じて、翌朝にハウスを移動して開放します。これを500m²～1,000m²程度のハウスであれば1棟毎に1日活動させて3棟までローテーションできます。



②隔日もしくは3日おきに開放

小規模（～1,000m²）かつ1棟しかハウスを持っていない生産者の場合には、活動を1日活動させた後、回収モードではなく通常の活動モードのまま、日が暮れて働き蜂が帰巢するのを待ってから巣門を閉じます。巣門を閉じたまま1日もしくは2日の間隔を置いてから1日活動させることを繰り返します。

③半日開放

巣の活動が活発で、より小規模（～500m²）のハウスの場合には半日だけ活動させて②と同様数日の間隔をあけてから、また半日開放を繰り返すようにします。この場合には午前中に活動させるとその後の回収が困難ですので、午後からもしくは日暮れまでの2～3時間前に開放して活動させ、日暮れによるタイムオーバーで必然的な活動時間制限をかけます。



【農薬の影響】

- ① 残効日数は厳守
- ② 散布後に雨天や曇天になったら、残効は1.5倍に計算
- ③ 薬散後に水たまりができる施設は残効を1.5倍に計算
- ④ 混用したら残効日数を足し算して

活動し易い環境をつくる

【ネットがないと】

- ① 施設外の花を求めて飛散し、トマトへの訪花率が低下
- ② モズやセキレイなどの鳥による働き蜂の食害
- ③ 露地作物での農薬散布による被害



マルハナバチに対する農薬影響表

マルハナバチへの農薬影響表（クロマルハナバチ、セイヨウオオマルハナバチ共通）

殺虫・殺ダニ剤		殺虫・殺ダニ剤		殺菌剤	
商品名	影響日数	商品名	影響日数	商品名	影響日数
アーデント	3	ダニオーテ	1	アフエット	1
アクセル	8	ダントツ（粒）	21	アミスター	1
アカリタッチ	0	ダントツ（水）	15以上	アリエッティ	2
アクタラ（粒）	21	チェス	0	アントラコール	1
アクタラ（水）	42	ディアナ	1～3	イオウフロアブル	0
アクテリック	14	テルスター	30	オーソサイド	0
アクセルフロアブル	8	トランスフォーム	2～5	オルパ	0
アグリメック	7～14	トリガード	1	カスミン	0
アグロスリン	20以上	トルネード	6	ショウチノスケ	0
アタブロン	4	トレボン	20以上	カリグリーン	0
アディオン	20以上	ニッソラン	1	カンタス	0
アドバンテージ（粒）	21	ネマキック	14以上	クムラス	0
アドマイヤー（粒）	35以上	ネマトリン	14以上	ゲッター	0
アドマイヤー（水）	30以上	ノーモルト	1	ケンジャ	0
アニキ	1	バイデート（粒）	14	サブロール	0
アフアーム	2	バリアード	1	サンヨール	0
アフアームエクセラ	2	BT剤（ジャックポットなど）	1	ジーファイン	0
アブロード	1	ピラニカ	1	ジマンダイセン	0
アブロードエース	1	ファインセーブ	1	ジャストミート	0
アルバリン/スタークル（粒）	10以上	ファルコン	1	スクレア	1
アルバリン/スタークル（水）	14以上	フェニックス	1	ストロビー	0
ウララ	0	プリファード	0	スミレックス	0
オルトラン（粒）	14～30	プリロソ	1	セイビアー	0
オルトラン（水）	10～20	プレオフロアブル	1	ダコニール	0
オレート	0	プレバソン	1	銅剤	0
カウンター	1	フーモン	0	トップジンM	0
カスケード	2	ベストガード（水）	10以上	トリフミン	1
カネマイト	2	ベストガード（粒）	30以上	ネクスター	1
ガードホープ	14	ベネピア	1	パレード	1
クリアザール	1	ベミデタッチ	0	バチスター	0
グレーシア	1	ベリマーク	1	ピクシオ	0
コテツ	9	パルミノ（モレスタン）	3～5	ピシロック	0
コルト	3～7	ポタニガード（ES、水）	1	ファンタジスタ	0
コロマイト	1	マイコタール	1	ファンベル	1
サイハロン	4	マイトコーネ	1	ブリザード	1
サフオイル	0	マッチ	0	フルピカ	0
サンクリスタル	0	マトリック	1	プロパティ	0
スカウト	2	マブリック	2～3	ベルコート	0
スターマイト	1	マラソン	30	ベンレート	0
スピノエース	3～7	ミネクトデュオ	21（定植後）	ホライズン	0
スブラサイド（水）	30	ムシラップ	0	ポリオキシシAL	0
スミチオン	20以上	モスピラン	1～3	モレスタン	3～5
ダイアジノン	30	モベント	45以上	ライメイ	1
ダニコング	1	ラグビーMC（粒）	30以上	ランマン	0
ダニサラバ	1	ラノー	0	ルビゲン	0
ダニトロン	1	ロディー	14以上	レーバス	1
ダブルシューター	3	ヨーバル（散布）	14	ロブラール	0
ダブルフェース	1				

（2021年9月改定）

注）農薬散布する時は、散布前にマルハナバチを巣箱に回収し、別の場所で保管して下さい。
再放飼する時は、影響日数をあけて行って下さい。影響0日の薬剤は、薬液が乾燥してから行って下さい。
表中の影響日数はあくまで目安であり、濃度、散布量、環境条件、気象条件等によっても異なります。
※この表は日本生物防除協議会、農薬メーカー、試験研究所などの情報を基にアリスタライフサイエンス（株）の知見を加え作成しています。



豊かな実りを日本のマルハナバチで

曇天、雨天、低温時でも活動する ナチュポール・ブラック や ミニポール・ブラック を併用すれば、ミツバチの活動を補完し、イチゴの収量の安定化につながります。

在来種クロマルハナバチのご利用には、許可申請、識別措置・届け出、増減台帳管理、許可の更新などの外来生物法に関する
いっさいの手続きが必要ありません。

※ 在来種マルハナバチの利用でも施設換気部にはネットの展張を

